

国際学術情報流通基盤整備事業  
(SPARC Japan)  
年報

平成30(2018)年度

国立情報学研究所



## 目次

巻頭言	1
1	概要..... 2
1.1	第5期（平成28～30年度）の活動概要..... 2
1.1.1	第5期基本方針..... 2
1.1.2	第5期事業計画..... 2
1.2	平成30年度活動..... 3
1.2.1	SPARC Japan セミナー..... 3
1.2.2	海外動向調査..... 6
1.2.3	arXiv.org コンソーシアム事務局..... 6
1.2.4	SCOAP <sup>3</sup> 支援..... 6
1.2.5	CLOCKSS 支援..... 7
1.2.6	論文公表実態調査..... 7
1.2.7	平成29年度国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)年報の発行... 7
2	委員会等開催記録..... 8
2.1	国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会..... 8
2.2	SPARC Japan セミナー企画 WG..... 8
3	委員名簿..... 8
3.1	国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会..... 8
3.2	SPARC Japan セミナー企画 WG..... 9
4	総合年表..... 10
5	刊行物一覧..... 22
5.1	国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)年報..... 22
5.2	SPARC Japan ニュースレター..... 22
5.3	SPARC Japan セミナードキュメント..... 22
6	資料 ニュースレター再掲..... 25



## 巻頭言

2018年4月に、国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会 委員長を拝命しました武田英明です。本事業は、安達淳前委員長をはじめとする本委員会のもとで、学術コミュニケーションの変革に係る活動を継続してまいりました。これまで同様に、学術情報流通に係る諸課題に対して、ステークホルダーの皆様とともに協力しながら対応してまいります。

さて、2003年から始まった本事業も2018年度で第5期の三年目を迎えました。一年間の活動を取りまとめ、ここに年報として報告いたします。本年報には、国際イニシアティブとの連携やSPARC Japan セミナーの開催等、本事業に係る活動を全て掲載しています。

2018年度も前年度に引き続き、国際的なイニシアティブとの協調やアドボカシー活動を活発に行いました。高エネルギー物理学分野の査読付きジャーナル論文のオープンアクセスを目的とした国際連携プロジェクト(SCOAP3)については、アメリカ物理学会(APS)が発行するジャーナルが参加することになり、それに伴う国内参加機関のとりまとめの役割を担いました。また、arXiv.orgについては、昨年度まで日本コンソーシアム代表を務めていただいた京都大学附属図書館長の引原隆士教授の後任として、私が Member Advisory Board に出席してまいりました。

アドボカシー活動としては、「オープンサイエンスの定着に向けて」を年間テーマとした、SPARCJapan セミナーを4回開催しました。第1回セミナーでは、「国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン」の位置づけや経緯を踏まえて、各々の機関におけるデータポリシーの策定や、図書館サービスとの関わりについて検討しました。第2回セミナーでは、オープンサイエンス時代のクオリティコントロールの方向性とコンテンツの質の保証をテーマに、現状の具体的な試みについて最新の情報共有と議論を行いました。第3回セミナーでは、OA2020について、基本的な理念やOAに至るまでのロードマップなどを参考にしながら、日本における最適なOAモデルへの移行方法を考えるきっかけとなるような情報共有を行いました。第4回では、人文社会系分野に焦点を当てて、データインフラの構築やモノグラフのオープン化、紀要のデジタル化に関する最新の情報を共有しつつ議論を行いました。また、セミナー以外の試みとして、欧州の研究助成財団・研究実施機関等が進めるPlan Sに関するドキュメントの翻訳と、この方策が日本の学術情報流通環境に及ぼす影響を整理して公開しました。

さらに、本年度は第5期の最終年度であることから、2019年度以降の活動について委員会内で活発な意見交換を行いました。その結果、活動主体の名称を国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会から学術情報流通推進委員会へと変更し、オープンアクセス・オープンサイエンスを推進するために、国内外の学術情報流通の動向や実態の把握に努め、それらに基づいた学術情報の公開や利活用に係る戦略の検討と調整、アドボカシー活動等を、学術コミュニティ等を中心としたステークホルダーの参画や連携のもとに行うこととなりました。

こうした方針の具体化については、「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」のもと、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)やオープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)等のもとより、研究者コミュニティとの協調も一層強化して、進めてまいり所存です。引き続き、皆様の厚いご支援をお願い申し上げます。

2019年3月31日  
国際学術情報流通基盤整備事業委員長  
武田 英明

# 1 概要

## 1.1 第5期（平成28～30年度）の活動概要

### 1.1.1 第5期基本方針

第5期においても、第4期の活動を継承し、国内外のOAイニシアティブや関係組織と連携し、オープンアクセス等を推進し、学術情報流通の更なる発展に取り組むことを基本方針とする。

特に米国SPARCと連携し、日本のオープンアクセス活動を国際的に発信する。オープンアクセス等の推進にあたっては、まずその課題を把握することに努めると共に、「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下の機関リポジトリ推進委員会および大学図書館コンソーシアム連合等との協調を一層強化し、学術情報流通の発展に向けて参加意識を強める方向でアドボカシー活動を継続的に行っていく。

### 1.1.2 第5期事業計画

SPARC Japan 第5期の事業は次の4つを柱として計画することが、平成27年度第3回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会で決定した。

#### (1)国際的なOAイニシアティブとの協調

国際イニシアティブに参画し、日本の窓口としての役割を果たすとともに、その活動・成果のアピールに努める。これらも含めて、国際的な動向を注視し、必要な対応を行う。

#### (2)学術情報流通にかかわるアドボカシー活動

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」等の組織と連携しつつ、オープンアクセスやオープンサイエンス、学協会出版の国際流通に係るアドボカシー活動を継続して実施する。

#### (3)オープンサイエンスへの活動スコープの拡大

研究成果のオープンアクセス、イノベーションの基盤となる可能性を秘めたオープンデータ、加えて高等教育の基本的構成要素の再考を迫るオープンエデュケーションなどへの関心の高まりにあわせて、理工学分野だけではなく、人文科学・社会科学分野の動向等に関して適時の情報提供を実現する。また、大学図書館におけるオープンサイエンスの取り組み、研究データの管理等への関与について、戦略的な検討を行う。

#### (4)オープンアクセスに関する基礎的情報の把握

第4期に引き続き、オープンアクセスに関する基礎的情報を把握するために実態調査等を行う。各大学・研究機関の研究戦略を考える上で、データを集め分析するために、図書館が一定の役割を果たすことも検討する。

## 1.2 平成30年度活動

1.1.2の事業計画のもと、平成30年度は次のプロジェクトを実施した。

### 1.2.1 SPARC Japan セミナー

アドボカシー活動として、SPARC Japan セミナーを4回実施した。セミナー企画ワーキンググループ（以下、「WG」という。）を立ち上げ、WGメンバー全員で年度を通した全体テーマ、セミナー各回のテーマの割り振りを検討し、各回に担当者を置いて企画・実施した。セミナー終了後、SPARC Japan ニュースレター（以下、「NL」という。）を発行・ウェブ配信した。

### SPARC Japan セミナーの記録

年間テーマ 「オープンサイエンスの定着に向けて」

第 1 回	<p>平成30年9月19日（水）13:30～17:10 （NII 12階会議室）</p> <p>「データ利活用ポリシーと研究者・ライブラリアンの役割」  <a href="https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20180919.html">https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20180919.html</a>          [司会] 林 賢紀（国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「開会挨拶/概要説明」 林 賢紀（国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター）</li> <li>・「統合イノベーション戦略と研究データ管理・利活用ポリシー策定ガイドラインが目指すもの」 赤池 伸一（科学技術・学術政策研究所 / 内閣府） 林 和弘（科学技術・学術政策研究所）</li> <li>・「国立環境研究所データポリシーとデータ公開に向けた試み」 白井 知子（国立環境研究所 地球環境研究センター）</li> <li>・「地域研究画像デジタルライブラリにおけるデータベース協働構築の実際」 丸川 雄三（国立民族学博物館） 石山 俊（国立民族学博物館）</li> <li>・「パネルディスカッション」 [モデレーター] 林 賢紀（国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター）</li> </ul> <p><u>企画WG（五十音順、◎は主査）</u>          林 賢紀（国際農林水産業研究センター）◎          林 和弘（科学技術・学術政策研究所）          八塚 茂（科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター）          石山 夕記（一橋大学附属図書館）</p>
	<p>参加人数：70名（定員：70名）          動画中継利用件数※：133、アーカイブ動画利用件数※：177          NL第36号（2019年3月）（参照：6 資料 ニュースレター再掲）</p>
第 2 回	<p>平成30年10月25日（木）10:10～16:10 （NII 12階会議室）</p> <p>「オープンサイエンス時代のクオリティコントロールを見通す」  <a href="https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20181025.html">https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20181025.html</a></p> <p>[司会] 中村 美里（東京大学附属図書館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「開会挨拶/概要説明」 八塚 茂（科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター）</li> <li>・「ジャーナルを超えた動き：出版者、資金提供者、機関の変わりゆく役割」 Rebecca Lawrence（F1000）</li> <li>・「出版におけるイノベーション-著者の視点」 Ben Seymour（情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター）</li> <li>・「Q &amp; A」 [モデレーター] 林 和弘（科学技術・学術政策研究所）</li> <li>・「学術コミュニケーションのエコシステムの今後～arXivの現状から考える～」 武田 英明（国立情報学研究所）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命科学研究におけるプレプリント活用の現状」 坊農 秀雅（情報・システム研究機構 ライフサイエンス統合データベースセンター）</li> <li>・「パネルディスカッション」 〔モデレーター〕 林 和弘（科学技術・学術政策研究所）</li> </ul> <p><u>企画 WG（五十音順、◎は主査）</u> 林 和弘（科学技術・学術政策研究所）◎ 八塚 茂（科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター） 鈴木 親彦（国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター） 中原 由美子（筑波大学 学術情報部）</p>
第 3 回	<p>参加人数：53名（定員：70名） 動画中継利用件数※：90、アーカイブ動画利用件数※：97 NL 第 37 号（2020 年 1 月）（参照：6 資料 ニュースレター再掲）</p> <hr/> <p>平成 30 年 11 月 9 日（金）13:00～17:25（NII 12 階会議室） 共催：大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）</p> <p>「オープンアクセスへのロードマップ: The Road to OA2020」 <a href="https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20181109.html">https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20181109.html</a></p> <p>〔司会〕 石山 夕記（一橋大学附属図書館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「開会挨拶/概要説明」 石山 夕記（一橋大学附属図書館）</li> <li>・「オープンアクセスのための OA2020 ロードマップ」 Ralf Schimmer（Head of Information Provision, Max Planck Digital Library）</li> <li>・「購読モデルからオープンアクセスモデルへ：JUSTICE の取り組み」 市古 みどり（慶應義塾大学 三田メディアセンター 事務長 / JUSTICE 運営委員会 委員長）</li> <li>・「日本における OA の推進を阻むもの：一（いち）生命科学者より」 大隅 典子（東北大学 副学長 / 附属図書館長 / 医学部・医学系研究科 教授）</li> <li>・「パネルディスカッション」 〔モデレーター〕 尾城 孝一（国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター）</li> </ul> <p><u>企画 WG（五十音順、◎は主査）</u> 石山 夕記（一橋大学附属図書館）◎ 高久 雅生（筑波大学） 中村 美里（東京大学附属図書館） 林 賢紀（国際農林水産業研究センター）</p> <p>参加人数：102名（定員：100名） 動画中継利用件数※：254、アーカイブ動画利用件数※：194 NL 第 38 号（2020 年 3 月）（参照：6 資料 ニュースレター再掲）</p>
第 4 回	<p>平成 31 年 1 月 29 日（火）13:30～17:00（NII 19 階会議室）</p> <p>「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ～その課題解決に向けて～」 <a href="https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20190129.html">https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20190129.html</a></p> <p>〔司会〕 鈴木 親彦（国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「開会挨拶/概要説明」 鈴木 親彦（国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター）</li> <li>・「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業の取組について」 前田 幸男（日本学術振興会 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター / 東京大学大学院情報学環）</li> <li>・「日本の学術書をオープンアクセスにするために」 天野 絵里子（京都大学 学術研究支援室）</li> <li>・「地域研究分野における学術雑誌のデジタル化とオープン化の現在」 設楽 成実（京都大学 東南アジア地域研究研究所）</li> <li>・「パネルディスカッション」 〔モデレーター〕 鈴木 親彦（国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター）</li> </ul>



	<p><u>企画WG（五十音順、◎は主査）</u>  鈴木 親彦（国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター）◎  高久 雅生（筑波大学）  中村 美里（東京大学附属図書館）  中原 由美子（筑波大学 学術情報部）</p>
	<p>参加人数：66名（定員：60名）  動画中継利用件数※：165、アーカイブ動画利用件数※：動画未公開  NL第39号（2020年3月）（参照：6 資料 ニュースレター再掲）</p>
年間	<p>参加人数：291名（定員計300名、平均73名）  動画中継利用件数※：642、アーカイブ動画利用件数※：468</p>

※2019年2月8日時点

### 1.2.2 海外動向調査

下記の国際会議等に参加し、情報収集を行った。

- ・ SCOAP<sup>3</sup> Executive Committee

(5月2-4日 Geneva、Switzerland) に NII 安達教授と山地教授を派遣した。

- ・ arXiv.org MAB annual meeting

(10月2日 New York、US) に NII 武田教授を派遣した。

- ・ NII 武田教授が CLOCKSS 事務局との面談を行った (10月5日 New York、US)。

### 1.2.3 arXiv.org コンソーシアム事務局

arXiv.org は物理学、数学、コンピュータサイエンス及び関連分野のプレプリントサーバで、コーネル大学図書館が運用している。2017年には電気工学システム科学、経済学が新たに加わった。2014年12月に100万論文を突破し、2018年には約150万件、新規登録数は年間14万件、ダウンロード数は年間約2.2億件以上であった。利用件数上位の機関による財政支援があり、2013年に開始した「arXiv 会員制プログラム」により2018年1月現在で27カ国231機関が参加している。

日本においてはNIIが各大学の意思確認を取りまとめて支援してきた。2014年4月にコーネル大学から、日本の会員館でコンソーシアムとして参加することについて打診があり、会員に確認の後、コンソーシアム契約に切り替えを行った。会費はコンソーシアム価格のため10%減となった。2017年は利用件数上位300位までの大学に会員申請の意向調査を行った結果、2018年12月末現在の会員数は16機関である。

さらに2015年度には、本コンソーシアム名を日本研究図書館コンソーシアム(英文名: Consortium of Japanese Research Libraries: Coordinated by National Institute of Informatics (NII)、英文略称: NII Japan Consortia)とした。また、引原隆士 京都大学図書館機構長に代わり、武田英明 NII 教授が本コンソーシアムの代表に就任し、10月2日開催の会議に出席した。

### 1.2.4 SCOAP<sup>3</sup> 支援

2014年から開始したSCOAP<sup>3</sup>について2018年も参加意向および連絡先を確認し、日本の大学図書館からの拠出金を、日本のナショナル・コンタクト・ポイントであるNIIがとりまとめて支払った。なお、フェーズ1(2014年~2016年)における日本の参加機関は34機関で、フェーズ2(2017年~2019年)は2017年に40機関、さらに2018年はアメリカ物理学会が対象誌として加わったことをうけ、69機関が参加した(2018年12月末現在)。

SCOAP<sup>3</sup>によりOA化された論文は約25,000件に達している(2014年~2018年)。論文あたりのコストを算出は、一般的なGold OA誌のAPCに比べて低く抑えられている。

SCOAP<sup>3</sup>のOA論文を収載したSCOAP<sup>3</sup>リポジトリとそのAPIが既に公開されているが、リポジトリはDOI付与、CC BYライセンス表示、XML形式で公開されており、テキストマイニング、データマイニングが可能である。

2018年からはアメリカ物理学会（American Physical Society : APS）が SCOAP<sup>3</sup>に加わり、APSの刊行する Physical Review C、Physical Review D、Physical Review Letters の3誌に掲載されている HEP 分野の論文がオープンアクセスとなった。これにより、2018年以降は世界中の HEP 分野の論文の約90%がオープンアクセスとなった。2018年、2019年の各購読機関の APS 契約金額からは SCOAP<sup>3</sup> 拠出額が削減される。

SCOAP<sup>3</sup> 評議会日本代表委員である NII 安達教授と運営委員会委員の山地教授が Executive Meeting 及び Governing Council（5月2-4日、CERN）に出席した。

その他、国内参加機関の参加促進に係る活動として、SCOAP<sup>3</sup> 参加の検討をお願いする文書を大学等各機関の長及び図書館長宛に送付したところ、数機関の参加を得た。また、高エネルギー物理学分野の研究者コミュニティと SCOAP<sup>3</sup> の現況を共有し、今後の対応を検討すべく「SCOAP<sup>3</sup> 推進のための検討会議」を開催した。

### 1.2.5 CLOCKSS 支援

CLOCKSS（Controlled Lots of Copies Keep Stuff Safe）は、全世界の研究者のためにデジタル資源（Web ベースの学術文献等）の長期保存を実現することを目的とし、アーカイブとそれを運営するコミュニティを構築して、コンテンツが出版社から提供されなくなった場合にアーカイブ上のコンテンツを広く利用できるようにするなどの取り組みを行っている。

日本においては2013年から NII が各大学の参加意向確認および年会費支払いのとりまとめを行っている。なお、日本からは2018年12月末現在で99機関が参加している。

### 1.2.6 論文公表実態調査

2015年度に、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と連携し、JUSTICE の下に論文公表実態調査チームを設け、我が国における論文公表と APC（Article Processing Charge）の実態調査を開始した。平成30年度も引き続きフォローアップを行った。

### 1.2.7 平成29年度国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）年報の発行

平成29年度の活動状況をまとめ、平成31年3月に発行した。また、平成28年度 SPARC Japan 年報について、平成30年11月に英語版を発行した。

## 2 委員会等開催記録

### 2.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会

開催日	議題
第1回 平成30年8月22日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回議事要旨（案）について</li> <li>2. 2018年度 SPARC Japan 活動状況について【報告】</li> <li>3. 国際連携の状況について【報告・審議】</li> <li>4. JUSTICEにおけるOpen Accessに係る活動状況報告【報告】</li> <li>5. 国際学術情報流通基盤整備事業第6期基本方針について【審議】</li> <li>6. その他</li> </ol>
第2回 平成30年12月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回議事要旨（案）について</li> <li>2. 2018年度 SPARC Japan 活動状況について【報告】</li> <li>3. 国際連携の状況について【報告】</li> <li>4. JUSTICEにおけるOpen Accessに係る活動状況報告【報告】</li> <li>5. 国際学術情報流通基盤整備事業の見直しについて【審議】</li> <li>6. その他</li> </ol>
第3回 平成31年2月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回議事要旨（案）について</li> <li>2. 2018年度国際学術情報流通基盤整備事業事業報告【報告】</li> <li>3. 国際学術情報流通基盤整備事業第5期のまとめについて【審議】</li> <li>4. 学術情報流通推進委員会（仮称）第1期（仮）基本方針及び活動計画について【審議】</li> <li>5. 海外動向の分析について【審議】</li> <li>6. その他</li> </ol>

### 2.2 SPARC Japan セミナー企画WG

開催日	議題
キックオフミーティング 平成30年6月5日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本WGの活動について</li> <li>2. 年間及び各回セミナーのテーマについて</li> <li>3. 分担・スケジュールについて</li> <li>4. その他</li> </ol>

## 3 委員名簿

### 3.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会

氏名	所属・役職	備考
逸村 裕	筑波大学 図書館情報メディア系 教授	1号委員 (研究教育職員)
今井 浩	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授	1号委員 (研究教育職員)
深貝 保則	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授	1号委員 (研究教育職員)
倉田 敬子	慶應義塾大学 文学部 教授	1号委員 (研究教育職員)
野崎 光昭	高エネルギー加速器研究機構 教授 国際連携推進室 室長	1号委員 (研究教育職員)

久保田 壮活	北海道大学附属図書館 管理課長	2号委員 (大学図書館関係者)
高橋 努	東京大学附属図書館 事務部長	2号委員 (大学図書館関係者)
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務部長	2号委員 (大学図書館関係者)
市古 みどり	慶應義塾大学三田メディアセンター 事務長 (大学図書館コンソーシアム連合運営委員会委員長)	2号委員 (大学図書館関係者)
林 和弘	科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 上席研究官	3号委員 (学会の関係者)
武田 英明	国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授 (JaLC 運営委員会委員長)	1号委員 (研究教育職員)
江川 和子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長	2号委員 (大学図書館関係者)

### 3.2 SPARC Japan セミナー企画WG

氏名	所属・役職
林 和弘	科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 上席研究官
高久 雅生	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授
八塚 茂	バイオサイエンスデータベースセンター 研究員
鈴木 親彦	国立情報学研究所/人文学オープンデータ共同利用センター (CODH) 特任研究員
中村 美里	東京大学附属図書館総務課 専門職員(企画渉外担当)
石山 夕記	一橋大学学術・図書部学術情報課 雑誌情報係員
林 賢紀	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 企画連携部情報広報室情報管理科情報管理係
中原 由美子	筑波大学 学術情報部 情報企画課 リポジトリ担当 係員

## 4 総合年表

年度	評議会 運営委員会	主催イベント	その他のイベント
平成 15 (2003)	06/25 第1回評議会  07/14 事業参画提案の募集開始  08/01 第1回運営委員会  09/11 第2回運営委員会  09/17 第2回評議会（事業参画提案決定） 09/17 記者発表  10/08 作業グループ合同会議	07/02 学協会向け事業説明会（於：日本教育会館）  08/19 事業説明会（於：東北大学 東北大学附属図書館との共催）  01/21-29 Project Euclid 説明会（於：学術総合センター、東北大学、京都大学、名古屋大学）  02/23 SPARC/JAPAN 懇談会：参加学会への成果報告、新雑誌創刊構想説明（於：学術総合センター）  03/11 SPARC/JAPAN セミナー：生物系学協会誌をめぐる学術情報流通体制の将来 -UniBio Press のめざすもの-（於：東京大学附属図書館）	11/05 第5回図書館総合展フォーラム「SPARC/JAPAN：日本の国際学術コミュニケーションの変革」開催（於：東京国際フォーラム 国立大学図書館協議会・私立大学図書館協会主催）  11/20 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース（生物系、物理系、医学系の購読交渉）
平成 16 (2004)	05/28 第1回運営委員会  06/02 第1回評議会  06/07 参画提案募集開始  09/15 第2回運営委員会 09/22 第2回評議会（事業参画提案選定）	07/07 学協会向け事業説明会（於：学術総合センター）	07/01 国立大学図書館協会総会ワークショップ：「国際学術情報流通基盤整備事業の活動」（於：大阪大学コンベンションセンター）

	<p>10/14 作業グループ合同会議</p> <p>03/07 第3回運営委員会</p> <p>03/10 第3回評議会</p>	<p>09/27 Project Euclid 懇談会 (Project Euclid への参画に関する技術的打ち合わせ、DPubS についての説明)</p> <p>10/15 シンポジウム：学会出版と学術コミュニケーション活動の変革～SPARC/JAPAN を事例として～ (於：広島大学中央図書館 広島大学図書館、国立情報学研究所、国立大学図書館協会国際学術コミュニケーション委員会共催)</p> <p>10/19 緊急シンポジウム「どうする日本の学術誌！」(於：早稲田大学総合学術情報センター (社) 高分子学会、(社) 電子情報通信学会、東北数学雑誌編集委員会、(社) 日本機械学会、(社) 日本金属学会、(社) 日本動物学会、(社) 日本分析化学会、日本哺乳動物卵子学会、日本哺乳類学会、国立情報学研究所共催)</p> <p>11/05 OUP 懇談会「Open Access の現状について」</p> <p>11/25 第6回図書館総合展フォーラム「学術コミュニケーションの最先端：オープン・アクセスとセルフアーカイブ」(於：パシフィコ横浜)</p> <p>01/27 ワークショップ「電子ジャーナルのビジネスモデル構築と学術出版をめぐる動向」(於：日本教育会館)</p> <p>03/24 シンポジウム「SPARC の現状と課題：学術雑誌・機関レポジトリ・オープン・アクセス」(於：早稲田大学)</p>	<p>10/19-20 Project Euclid DPubS Conference に参加 (於：コーネル大学)</p>
<p>平成 17 (2005)</p>	<p>06/06 第1回運営委員会</p> <p>06/08 第1回評議会</p>	<p>05/19 SPARC/JAPAN 連続セミナー第1回「Nature の歴史、今、未来を語る－Nature の編集方針」</p> <p>06/29 SPARC/JAPAN 連続セミナー第2回「電子投稿査読システムとは何か－今、日本で使えるシステム」JST「J-STAGE 投稿審査システム」</p> <p>07/09-10 電子ジャーナル利用の現在と未来に関するクローズド・ワークショップ (於：経団連ゲストハウス、静岡)</p> <p>07/15 SPARC/JAPAN 連続セミナー第3回「オープン・アクセスの理念と実践－研究者・図書館・学術誌」</p>	<p>06/21-22 JISC International Solutions for the Dissemination of Research に出席、討議 (ロンドン)</p> <p>07/07-08 エルゼビア・ライブラリ・コネクト・セミナー2005「ユーザーを理解する (Understanding Users)」(於：京都・東京、エルゼビア・ジャパン主催、NII 後援)</p>

<p>10/13 第2回運営委員会 10/26 第2回評議会（事業参画提案選定）</p>	<p>07/20 UniBio Press の挑戦 - 学会の新しいビジネスモデル（於：茨城大学 茨城大学図書館主催）</p> <p>09/22 SPARC/JAPAN 連続セミナー第4回「電子ジャーナルをどう作成し、どう公開するかー学協会、企業の試み」</p> <p>10/06 SPARC/JAPAN 連続セミナー第5回「主体である研究者は何をすべきかー電子ジャーナル時代を迎えて」（於：つくば国際会議場社団法人日本動物学会第76回大会関連シンポジウムとの共催）</p> <p>11/24 SPARC/JAPAN 連続セミナー臨時回「Journal of Bioscience and Bioengineering WEB 投稿審査システム」説明会・デモンストレーション</p> <p>11/30 SPARC/JAPAN 連続セミナー第6回「第7回図書館総合展フォーラム COUNTER プロジェクト：オンライン利用統計の国際標準について」（於：パシフィコ横浜）</p> <p>12/01 COUNTER プロジェクトに関するクローズド・ワークショップ</p> <p>12/12 SPARC/JAPAN 連続セミナー第7回「日本の学術誌における英文校閲を考える」</p> <p>01/31 SPARC/JAPAN 連続セミナー第8回「学術情報流通をめぐる最近の動向と技術標準：Google Scholar、CrossRef、OAI-PMH、etc.」</p> <p>02/10 SPARC/JAPAN 連続セミナー第9回「SPARC/JAPAN 選定誌によるラップアップセッション」</p>	<p>09/15 山口大学図書館セミナー2005「日本の電子ジャーナルの現況」学術コミュニケーションの今日：SPARC/JAPAN の挑戦（於：山口大学 山口大学学術情報機構図書館主催）</p> <p>09/16 京都大学学術情報・電子ジャーナルシンポジウム「大学における学術情報資源の整備—電子ジャーナル時代の学術コミュニケーションの変革—」（於：京都大学 京都大学附属図書館とNIIの共催）</p> <p>12/09 長崎大学附属図書館連続講演会第二回講演会「学術情報発信の新しい動向」：SPARC/JAPAN の活動と課題（於：長崎大学 長崎大学附属図書館主催）</p>
<p>平成 18 (2006)</p>	<p>06/30 SPARC Japan 連続セミナー2006 第1回「海外商業出版社から見た日本の学術コミュニティ」</p> <p>07/26 SPARC Japan 連続セミナー2006 第2回「e-Journal の販促とライセンス：海外の状況と海外市場における日本ジャーナルの展望」</p>	<p>03 米国研究図書館協会（ARL）と MOU を締結</p> <p>07/03-04 エルゼビア・ライブラリ・コネクト・セミナー2006「From “ Search ” to “ Find ” ～ 必要な情報を見つけやすい環境づくり ～」（於：東京・大阪、エルゼビア・ジャパン主催、NII 後援）</p>



	<p>09/08 第1回運営委員会</p> <p>01/30 第2回運営委員会</p>	<p>09/05 Sally Morris 氏講演会「Introducing ALPSP」</p> <p>09/29 SPARC Japan 連続セミナー2006 第3回「Web 投稿審査システムの検証：ビフォーアフター」</p> <p>11/02 SPARC Japan 連続セミナー2006 第4回「大学図書館から学術出版社への要望：COUNTER を例にして」</p> <p>11/20 第8回図書館総合展フォーラム「TRANSFER－出版社間のジャーナル移行に伴う問題点とその解決に向けて」（於：パシフィコ横浜）</p> <p>12/14 SPARC Japan 連続セミナー2006 第5回「著作権：学会の権利、著者の権利、機関リポジトリへの対応」</p> <p>12/18-19 「デジタル巨人の肩の上に立つ」機関リポジトリ、e-サイエンス、および学術コミュニケーションの将来に関する国際シンポジウム（於：都市センターホール）</p> <p>01/30 SPARC Japan 連続セミナー2006 第6回「e-Journal の販売とライセンス(2)- 販売のプロに学ぶ成功の秘訣」</p> <p>03/05 SPARC Japan 連続セミナー2006 第7回「計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測る」</p>	
<p>平成 19 (2007)</p>	<p>06/12 パートナー誌合同会議</p> <p>07/19 第1回運営委員会</p>	<p>07/17 SPARC Japan 連続セミナー2007 第1回「計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測る-2-」</p> <p>10/02 SPARC Japan 連続セミナー2007 第2回「Web 投稿審査システムの検証パート3 稿より良いシステムを目指して」</p>	<p>05/15 UniBio Press セミナー「生物系ジャーナルの挑戦－より明確に、より広く、その情報を伝えるために」（於：学術総合センター UniBio Press 主催）</p> <p>05/17 UniBio Press セミナー「生物系ジャーナルの挑戦－より明確に、より広く、その情報を伝えるために」（於：京都大学附属図書館 UniBio Press 主催）</p> <p>08/05-11 41th IUPAC (International Union of Pure and Applied Chemistry) 化学会議出展（於：トリノ）</p> <p>08/20-22 234th ACS 秋季大会出展（於：ボストン）</p>

	<p>12/14 パートナー誌と大学図書館の合同会議 「SPARC Japan パートナー誌のコンソーシアム購入に向けて」</p> <p>02/29 第2回運営委員会</p>	<p>11/02 SPARC Japan 連続セミナー2007 第3回「メタデータ Publishing の現在—電子ジャーナル主体の製作・出版に必要なもの」</p> <p>11/09 第9回国書館総合展プレゼンテーション「日本の英文トップ電子ジャーナルの挑戦—図書館総合展プレゼンターパートナー誌からの提案—」(於：パシフィコ横浜)</p> <p>01/17 SPARC Japan・ALPSP 特別セミナー (第4回 SPARC Japan 連続セミナー2007)「学術出版と学会 Journal Publishing and Scholarly Societies」</p> <p>01/18 ALPSP トレーニングコース「Introduction to Journal Publishing」</p>	<p>11/07-09 第9回国書館総合展出展 (於：パシフィコ横浜)</p>
<p>平成 20 (2008)</p>		<p>04/22 SPARC Japan セミナー2008 第1回「研究成果発表の手段としての学術誌の将来」</p> <p>06/24 SPARC Japan セミナー2008 第2回「学術出版とXML 対応-日本の課題」</p> <p>07/10 SPARC Japan セミナー2008 第3回「韓国コンソーシアム事情 - 海外展開を目指して -」</p> <p>09/02-03 RIMS 研究集会 (第4回 SPARC Japan セミナー2008)「紀要の電子化と周辺の話題」(於：京都大学数理解析研究所 京都大学数理解析研究所主催)</p> <p>10/14 SPARC Japan セミナー2008 (Open Access Day 特別セミナー)「日本における最適なオープン・アクセスとは何か?」</p>	<p>06/15-17 SLA (Special Libraries Association 米国専門図書館協会) 年次総会出展 (於：シアトル)</p> <p>06/26 第55回国立大学図書館協会総会出展 (於：東北大学)</p> <p>07/13-15 中国化学会学術年会出展 (於：天津)</p> <p>08/17-19 236th ACS National Meeting &amp; Exposition 出展 (於：フィラデルフィア)</p> <p>09/11-12 私立大学図書館協会総会出展 (於：國學院大學)</p> <p>09/16-20 2nd EuCheMS Chemistry Congress 出展 (於：トリノ)</p> <p>09/25-26 KESLI (Korean Electronic Site License Initiative) 電子情報 EXPO での発表、出展 (於：大田)</p> <p>10/12-15 15th North American ISSX (International Society for the Study of Xenobiotics) Meeting での広報 (於：サンディエゴ)</p> <p>10/27-30 ISAP2008 (International Symposium on Antennas and Propagation) 出展 (於：台湾)</p>

	<p>12/24 第1回運営委員会</p> <p>03/10 第2回運営委員会</p> <p>03/27 パートナー誌合同会議</p> <p>03/27 第3回運営委員会</p>	<p>11/17-18 SPARC Digital Repositories Meeting 2008 (於: ポルチモア SPARC、SPARC Europe、 SPARC Japan 共同主催)</p> <p>11/25 SPARC Japan セミナー2008 第6回「IFを越えて-さらなる研究評価の在り方を考える」</p> <p>11/27 SPARC Japan セミナー2008 第7回(第10回図書館総合展・学術情報オープンサミット2008 フォーラム)「Open Access Update」</p> <p>12/16 SPARC Japan セミナー2008 第8回「日本で使える電子ジャーナルプラットフォーム」</p> <p>01/22-26 Project Euclid と数学系ジャーナルの打ち合せ(於: 国立情報学研究所、京都大学、東京工業大学)</p> <p>02/13 SPARC Japan セミナー2008 第9回「SPARC Japan 選定誌がやってきたこと」</p>	<p>11/13-14 INFOPRO2008 プロダクトレビュー参加・出展(於: 日本科学未来館)</p> <p>12/17-20 EUC2008 (International Conference On Embedded and Ubiquitous Computing) 出展(於: 上海)</p> <p>03/16-20 APS March Meeting 2009 (米国物理学会年会) 出展(於: ピッツバーグ)</p>
<p>平成 21 (2009)</p>	<p>10/05 第1回運営委員会</p>	<p>06/25 SPARC Japan セミナー2009 第1回「研究者は発信する一多様な情報手段を用い、社会への拡がりを求めて」</p> <p>08/04 SPARC Japan セミナー2009 第2回「非営利出版のサステイナビリティとは-OUPに学ぶ」</p> <p>09/08-09 RIMS 研究集会(第3回 SPARC Japan セミナー2009) 「数学におけるデジタルライブラリー構築へ向けて-研究分野間の協調のもとに」</p> <p>09/17 日本動物学会大会(第4回 SPARC Japan セミナー2009) 「ZS プロジェクトについて」</p> <p>10/20 Open Access Week (第5回 SPARC Japan セミナー2009) 「オープンアクセスのビジネスモデルと研究者の実際」</p> <p>11/11 第6回 SPARC Japan セミナー2009 (第11回図書館総合展学術情報オープンサミット2009 フォーラム) 「NIH Public Access Policy とは何か」</p>	<p>11/25 第9回アジア太平洋生物化学工学会議 (APBioChEC 2009) に SPARC Japan の化学系パートナー誌が出展(於: 神戸国際会議場)</p>

	03/23 第2回運営委員会	<p>12/11 第7回 SPARC Japan セミナー2009「人文系学術誌の現状－機関リポジトリ、著作権、電子ジャーナル」</p> <p>02/02 第8回 SPARC Japan セミナー2009「Marketing to Libraries Worldwide」</p> <p>02/03 ALPSP トレーニングコース「Effective Journals Marketing」</p>	<p>12/03-04 DRFIC 2009 デジタルリポジトリ連合国際会議 2009 (於：東京工業大学 DRF (デジタルリポジトリ連合) と NII の共催)</p>
平成 22 (2010)		<p>06/23 第1回 SPARC Japan セミナー2010「学会の仕事とその経営を知る」</p> <p>07/06 第2回 SPARC Japan セミナー2010「ジャーナル出版－海外学会の現状」</p> <p>08/24 第3回 SPARC Japan セミナー2010「図書館の仕事を知る－学術雑誌の購読と利用」</p> <p>09/16 第4回 SPARC Japan セミナー2010 (RIMS 研究集会)「数学におけるデジタルライブラリー構築へ向けて」</p> <p>09/24 第5回 SPARC Japan セミナー2010 (社団法人 日本動物学会 第81回大会)「日本の学術情報流通 10年後を見据えて」</p> <p>10/20 第6回 SPARC Japan セミナー2010 Open Access Week「日本発オープンアクセス」</p> <p>11/08-09 SPARC Digital Repositories Meeting (デジタルリポジトリ会議) (於：ボルチモア SPARC、SPARC Europe、SPARC</p>	<p>08/19 International Congress of Mathematicians (国際数学者会議)に出展 (於：ハイデラバード)</p> <p>08/22-26 American Chemical Society (ACS) 2010年 秋季大会に出展 (於：マサチューセッツ)</p> <p>08/29-09/02 3rd EuCheMS Chemistry Congress (第3回ヨーロッパ化学会議)に出展 (於：ニュルンベルク)</p>

	03/16 第1回運営委員会	<p>Japan 共催)</p> <p>12/10 シンポジウム 「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」(於:東京大学 国立大学図書館協会と NII の共催)</p> <p>01/14 第7回 SPARC Japan セミナー2010 「著者 ID の動向」</p> <p>02/03 第8回 SPARC Japan セミナー2010 「世界における”日本の論文/日本の学術誌”のインパクト」</p> <p>03/08 TIB (ドイツ技術情報図書館) / ZB MED (ドイツ医学中央図書館) / NII (国立情報学研究所) MoU 締結記念 講演会 「ドイツと日本における学術情報流通基盤の未来」(於:学術総合センター 東京ドイツ文化センターとの共催)</p>	
平成 23 (2011)	10/06 第1回運営委員会	<p>10/28 第1回 SPARC Japan セミナー2011 Open Access Week 「OA 出版の現況と戦略 (ジャーナル出版の側から)」</p> <p>12/06 第2回 SPARC Japan セミナー2011 「今時の文献管理ツール」ワークショップ</p> <p>01/31 第3回 SPARC Japan セミナー2011 「学術情報流通の新たな展開 - 研究者・学会とオープンアクセス -」</p> <p>02/10 第4回 SPARC Japan セミナー2011 「学術情報流通の未来を切り開く - 電子ジャーナルの危機とオープンアクセス -」</p> <p>02/29 第5回 SPARC Japan セミナー2011 「OA メガジャーナルの興隆」</p> <p>03/26 第6回 SPARC Japan セミナー2011 「数学出版に関するワ</p>	<p>08/28-09/01 American Chemical Society (ACS) Fall 2011 National Meeting &amp; Exposition (第242回米国化学会秋季大会) に出展(於:デンバー)</p> <p>09/04-09 14th Asian Chemical Congress 2011 (14 ACC) (第14回アジア化学会議) に出展(於:バンコク)</p> <p>10/26 2011 Open Access Korea(OAK) Conference での発表(於:ソウル)</p>

	03/27 第2回運営委員会	ークショップ」(於:東京理科大学 Project Euclid 主催、日本数学会共催ワークショップ)	
平成 24 (2012)	12/10 第1回運営委員会  03/26 第2回運営委員会	05/25 第1回 SPARC Japan セミナー2012「学術評価を考える」 06/19 第2回 SPARC Japan セミナー2012「ジャーナルの発展をもとめて～プラットフォーム移築を中心に～」 07/25 第3回 SPARC Japan セミナー2012「平成25年度 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)改革」 08/23 第4回 SPARC Japan セミナー2012「研究助成機関が刊行するオープンアクセス誌」 10/26 第5回 SPARC Japan セミナー2012「Open Access Week - 日本におけるオープンアクセス、この10年これからの10年」 12/04 第6回 SPARC Japan セミナー2012「オープンアクセスによって図書館業務はどう変わるのか～図書館のためのオープンアクセス講座～」 02/19 第7回 SPARC Japan セミナー2012「図書館によるオープンアクセス財政支援」	07/02-07 European Congress of Mathematics (ECM) に出展(於:クラクフ、ポーランド)  08/19-21 American Chemical Society (ACS) Fall 2012 National Meeting & Exposition (第244回米国化学会秋季大会)に出展(於:フィラデルフィア)  08/26-30 4th EuCheMS Chemistry Congress (第4回ヨーロッパ化学会議) に出展(於:プラハ)  12/26-27 RIMS 共同研究 研究会にて基調講演(於:京都大学)
平成 25 (2013)		06/07 第1回 SPARC Japan セミナー2013「SPARC と SPARC Japan のこれから」 08/23 第2回 SPARC Japan セミナー2013「人社系オープンアクセスの現在」 10/25 第3回 SPARC Japan セミナー2013「オープンアクセス時代の研究成果のインパクトを再定義する:再利用とAltmetricsの現在」 12/19 第4回 SPARC Japan セミナー2013「今日の問題を解く、学術情報の受信と発信-Think Globally, Act Locally」 02/07 第5回 SPARC Japan セミナー2013「アジアを吹き抜けるオープンアクセスの風-過去、現在、未来」	08/06 第1回 OA ジャーナルへの投稿に関する調査ワーキンググループ開催 10/02 第2回 OA ジャーナルへの投稿に関する調査ワーキンググループ開催  12/04 SCOAP <sup>3</sup> とMOUを締結  01/27 RIMS 共同研究 研究会にて基調講演(於:京都大学)  03/02 COAPI Meeting へ参加(於:カンザスシティ)

	03/24 第1回運営委員会		03/03-04 SPARC2014 Open Access Meeting 本会議への参加 (於：カンザスシティ) 03/13 第3回 OA ジャーナルへの投稿に関する調査ワーキング グループ開催
平成 26 (2014)	01/15 第1回運営委員会 03/19 第2回運営委員会	08/04 第1回 SPARC Japan セミナー2014「大学/研究機関はどの ようにオープンアクセス費用と向き合うべきか—APCをめぐる 国内外の動向から考える」 09/26 第2回 SPARC Japan セミナー2014「大学における OA ポ リシー：日本版 OA ポリシーのモデル構築に向けて」 10/21 第3回 SPARC Japan セミナー2014「「オープン世代」の Science」 03/09 第4回 SPARC Japan セミナー2014「グリーンコンテンツ の拡大のために我々はなにをすべきか？」	05/21-23 COAR(Confederation of Open Access Repository) 2014 Annual meeting への参加 (於：アテネ) 06/09-13 OR2014 (The 9th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：ヘルシンキ)
平成 27 (2015)	08/04 第1回運営委員会 11/30 第2回運営委員会 03/24 第3回運営委員会	09/30 第1回 SPARC Japan セミナー2015「学術情報のあり方 - 人社系の研究評価を中心に -」 10/21 第2回 SPARC Japan セミナー2015「科学的研究プロセス と研究環境の新たなパラダイムに向けて - e-サイエンス、研 究データ共有、そして研究データ基盤 -」 01/19 第3回 SPARC Japan セミナー2015「研究者向けソーシャ ルメディアサービスの可能性」 03/09 第4回 SPARC Japan セミナー2015「研究振興の文脈にお ける大学図書館の機能」	04/15-16 COAR(Confederation of Open Access Repository) 2015 Annual meeting への参加 (於：ポルト) 05/18-20 ORCID-CASRAI Joint Outreach Conference & Codefest 及び ORCID Board Meeting への参加 (於：バルセロナ) 06/08-11 OR2015 (The 10th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：インディアナポリス) 11/03-06 ORCID Outreach Meeting & Codefest, November 2015 及び ORCID Board Meeting への参加(於：サンフランシスコ) 02/02-03 ORCID Board Meeting への参加 (於：ロンドン) 03/07-08 SPARC Meeting on Openness in Research & Education へ の参加 (於：サンアントニオ)

<p>平成 28 (2016)</p>	<p>09/06 第 1 回運営委員会</p> <p>03/14 第 2 回運営委員会</p>	<p>09/09 第 1 回 SPARC Japan セミナー2016 「オープンアクセスへの道」</p> <p>10/26 第 2 回 SPARC Japan セミナー2016 「研究データオープン化推進に向けて：インセンティブとデータマネジメント」</p> <p>02/14 第 3 回 SPARC Japan セミナー2016 「科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて：オープンサイエンス再考」</p>	<p>04/11-13 COAR (Confederation of Open Access Repository) Annual Meeting 2016 への参加 (於：ウィーン)</p> <p>05/18-19 ORCID Board Meeting への参加 (於：トロント)</p> <p>06/08-11 CRIS2016 (The 13th International Conference on Current Research Information Systems)への参加 (於：セントアンドリュース)</p> <p>06/13-16 OR2016 (The 11th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：ダブリン)</p> <p>09/12-13 arXiv.org Member Advisory Board Meeting への参加 (於：イタカ)</p> <p>09/15-17 RDA (Research Data Alliance) 8th Plenary Meeting への参加 (於：デンバー)</p> <p>10/14-15 SCOAP<sup>3</sup> Executive Meeting への参加(於：ジュネーブ)</p> <p>11/09-10 PIDapalooza (PID：Persistent ID) への参加 (於：レイキャビック)</p> <p>12/07-09 SCOAP<sup>3</sup> に関する講演・意見交換会への協力 (於：NII、京都)</p> <p>01/17-19 IDF Strategic Meeting への参加 (於：バルセロナ)</p> <p>01/25-27 Open Access に係る海外機関の調査 (於：レーゲンスブルク、ミュンヘン)</p> <p>03/20 SCOAP<sup>3</sup> Executive Meeting への参加(於：ジュネーブ)</p> <p>03/23-24 SCOAP<sup>3</sup> Governing Council Meeting への参加 (於：ジュネーブ)</p>
<p>平成 29 (2017)</p>	<p>09/26 第 1 回運営委員会</p>	<p>09/13 第 1 回 SPARC Japan セミナー2017 「図書館員と研究者の新たな関係：研究データの管理と流通から考える」</p> <p>10/30 第 2 回 SPARC Japan セミナー2017 「プレプリントとオープンアクセス」</p>	<p>04/05-07 RDA (Research Data Alliance) 9th Plenary Meeting への参加 (於：バルセロナ)</p> <p>05/08-10 COAR (Confederation of Open Access Repository) Annual meeting 2017 への参加 (於：ヴェニス)</p> <p>06/13-14 IDF Strategic Meeting International DOI Foundation への参加 (於：テジョン)</p> <p>06/15 DOI Outreach Meeting への参加 (於：ソウル)</p> <p>06/27-30 OR2017 (The 12th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：ブリスベン)</p> <p>09/18-21 RDA (Research Data Alliance) 10th Plenary Meeting への参加 (於：モントリオール)</p> <p>09/26 SCOAP<sup>3</sup> Governing Council Meeting への参加(テレビ会議)</p> <p>10/05 arXiv.org Member Advisory Board Meeting への参加 (於：ニューヨーク)</p> <p>12/07 SCOAP<sup>3</sup> FORUM (Webinar)</p>



	03/19 第2回運営委員会	02/21 第3回 SPARC Japan セミナー2017「オープンサイエンスを超えて」	01/23-24 PIDapalooza (PID : Persistent ID) への参加 (於：ジローナ) 01/25-26 IDF Annual Meeting への参加 (於：バルセロナ)
平成 30 (2018)	08/22 第1回運営委員会    12/13 第2回運営委員会  02/08 第3回運営委員会	09/19 第1回 SPARC Japan セミナー2018「データ利活用ポリシーと研究者・ライブラリアンの役割」 10/25 第2回 SPARC Japan セミナー2018「オープンサイエンス時代のクオリティコントロールを見通す」 11/09 第3回 SPARC Japan セミナー2018「オープンアクセスへのロードマップ: The Road to OA2020」 01/29 第4回 SPARC Japan セミナー2018「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ～その課題解決に向けて～」	05/02-04 SCOAP3 Executive Committee への参加 (於：ジュネーブ)  10/02 arXiv.org MAB annual meeting に参加 (於：ニューヨーク) 10/05 CLOCKSS 事務局との面談 (於：ニューヨーク)

## 5 刊行物一覧

### 5.1 国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 年報

〔日本語〕

- ・国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 年報 平成 29 (2017) 年度  
[https://www.nii.ac.jp/sparc/publications/annual/pdf/sparc\\_annual\\_2017.pdf](https://www.nii.ac.jp/sparc/publications/annual/pdf/sparc_annual_2017.pdf)

〔英語〕

- ・SPARC Japan (International Scholarly Communication Initiative) Annual Report FY2016  
[https://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sparc\\_annual\\_2016-E.pdf](https://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sparc_annual_2016-E.pdf)

### 5.2 SPARC Japan ニュースレター

〔日本語〕

- ・SPARC Japan NewsLetter 第 35 号 (2018 年 7 月)  
<https://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-36.pdf>
- ・SPARC Japan NewsLetter 第 36 号 (2019 年 3 月)  
<https://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-36.pdf>

〔英語〕

- ・SPARC Japan NewsLetter No. 35, Dec. 2018  
<https://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter35E.pdf>

### 5.3 SPARC Japan セミナードキュメント

【第 1 回 SPARC Japan セミナー 2018】 (平成 30 年 9 月 19 日)

「データ利活用ポリシーと研究者・ライブラリアンの役割」

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20180919.html>

- ・「開会挨拶/概要説明」  
林 賢紀 (国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター)
- ・「統合イノベーション戦略と研究データ管理・利活用ポリシー策定ガイドラインが目指すもの」  
赤池 伸一 (科学技術・学術政策研究所 / 内閣府)  
林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)
- ・「国立環境研究所データポリシーとデータ公開に向けた試み」  
白井 知子 (国立環境研究所 地球環境研究センター)
- ・「地域研究画像デジタルライブラリにおけるデータベース協働構築の実際」  
丸川 雄三 (国立民族学博物館)  
石山 俊 (国立民族学博物館)
- ・「パネルディスカッション」  
〔モデレーター〕 林 賢紀 (国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター)

【第2回 SPARC Japan セミナー 2018】（平成30年10月25日）

「オープンサイエンス時代のクオリティコントロールを見通す」

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20181025.html>

- ・「開会挨拶/概要説明」  
八塚 茂（科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター）
- ・「ジャーナルを超えた動き：出版者，資金提供者，機関の変わりゆく役割」  
Rebecca Lawrence（F1000）
- ・「出版におけるイノベーション-著者の視点」  
Ben Seymour（情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター）
- ・「Q & A」  
〔モデレーター〕林 和弘（科学技術・学術政策研究所）
- ・「学術コミュニケーションのエコシステムの今後～arXivの現状から考える～」  
武田 英明（国立情報学研究所）
- ・「生命科学研究におけるプレプリント活用の現状」  
坊農 秀雅（情報・システム研究機構 ライフサイエンス統合データベースセンター）
- ・「パネルディスカッション」  
〔モデレーター〕林 和弘（科学技術・学術政策研究所）

【第3回 SPARC Japan セミナー 2018】（平成30年11月9日）

「オープンアクセスへのロードマップ: The Road to OA2020」

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20181109.html>

- ・「開会挨拶/概要説明」  
石山 夕記（一橋大学附属図書館）
- ・「オープンアクセスのための OA2020 ロードマップ」  
Ralf Schimmer（Head of Information Provision, Max Planck Digital Library）
- ・「購読モデルからオープンアクセスモデルへ：JUSTICE の取り組み」  
市古 みどり（慶應義塾大学 三田メディアセンター 事務長 / JUSTICE 運営委員会委員長）
- ・「日本における OA の推進を阻むもの：一（いち）生命科学者より」  
大隅 典子（東北大学 副学長 / 附属図書館長 / 医学部・医学系研究科 教授）
- ・「パネルディスカッション」  
〔モデレーター〕尾城 孝一（国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター）

【第4回 SPARC Japan セミナー 2018】（平成31年1月29日）

「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ～その課題解決に向けて～」

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20190129.html>

・「開会挨拶/概要説明」

鈴木 親彦（国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター）

・「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業の取組について」

前田 幸男（日本学術振興会 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター / 東京大学大学院情報学環）

・「日本の学術書をオープンアクセスにするために」

天野 絵里子（京都大学 学術研究支援室）

・「地域研究分野における学術雑誌のデジタル化とオープン化の現在」

設楽 成実（京都大学 東南アジア地域研究研究所）

・「パネルディスカッション」

[モデレーター] 鈴木 親彦（国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター）

国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）年報  
—平成 30 (2018) 年度—

---

令和 2 年 3 月

発行 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構  
国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号

TEL 03-4212-2351

FAX 03-4212-2375

E-mail [sparc@nii.ac.jp](mailto:sparc@nii.ac.jp)

---

